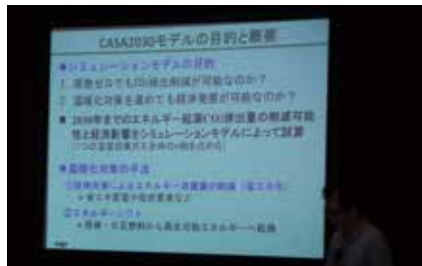


(特非) 地球環境市民会議(CASA)

日本における 2030 年の二酸化炭素排出削減可能性の検討

イベントの延べ参加者数	149 人
イベント参加者の満足度	70%
活動の全体目標に対する達成度	80%



地球環境大学にて 2030 モデルを講演

◆成果と工夫したポイント

●成果

報告書「原発ゼロで CO₂ 排出 40% 削減は十分可能～「CASA2030 モデル」の試算結果～」(2014 年 11 月) やポジションペーパー「2℃目標に見合った合意を!」(2015 年 11 月) を公表した。

●工夫

報告書やペーパーは日本語版と英語版を作成し、入手しやすいように CASA ホームページに掲載した。

課題

本活動で解決したい課題は、日本の 2030 年の CO₂ 排出量を大幅に削減可能であることを明らかにし、その研究成果を国内外で広めることである。

目標

「CASA2030 モデル」というシミュレーションモデルを独自に開発し、2030 年の CO₂ 排出量を 50% 削減できることを示して市民版の政策提言を行い、政策議論に影響を与えることである。

活動内容

2030 年の二酸化炭素排出量は、1990 年比で 50% 削減することが十分可能である。それは原発に頼らず、省エネ対策と再生可能エネルギーの普及によって可能であり、これらの対策が、マクロ経済に悪影響をほとんど与えないことを明らかにした。また、日本語と英語の報告書を取りまとめた。さらに、これらの研究成果を研究会や講演会などでわかりやすく提示し、市民から有益な質疑応答を行った。



COP21 での CASA の展示ブースの様子

達成できなかったこと

「CASA2030 モデル」で示された CO₂ 排出削減可能性と政策提言を出版する予定であったが、執筆者の多忙や国内外の情勢変化に対応させるために遅れている。

今後の展望

政策提言をまとめた本を出版し、講演会等で市民の関心を拡げ、温暖化防止社会の実現に向けて活動を進める。